

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会(第2回)

8月23日(日)午後2時～午後3時34分 北橋公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	・ 第1回説明会(6月～7月開催)の開催状況を、市ホームページで確認したところ、参加人数が少ないように思いました。本日の参加者も少ないと感じています。 自治会も含めて、地元住民が参加できるような環境作りをして、様々な意見を聞くことが大切だと思います。少数の意見だけを聞いた偏ったものにならないようにしてもらいたいです。 ・ 説明会の開催に予定が合わない保護者もいます。各校での実施なども検討できるのではないのでしょうか。	より多くの関係者の皆様からご意見等を伺う必要があると考えております。説明会への参加者数が少ないことについては、第1回説明会の開催状況を踏まえ、開催時間や曜日の調整などを実施しました。その結果、8月22日に開催した古巻公民館での第2回説明会では、1回目よりも人数が増えた状況です。 今後の説明会につきましても、周知方法や実施方法の試行錯誤を継続し、少しでも参加者が増えるよう努めたいと思います。 現状で各校での実施は予定がありませんが、各学校の学校運営協議会委員との懇談や保護者向けのアンケート、市民意見公募の機会を設け、多くの方の意見をお伺いしながら、学校の適正規模・適正配置を進めたいと考えています。
2	グループワークを実施することも市民意見を把握するための手法のひとつだと思います。参加者同士の意見交換によって理解が深まったり、新しい意見が生まれたりする場合もあります。今後、グループワークのようなことを実施する予定がありますか。	今年度中に策定する「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」を検討する中では、グループワークの実施の想定はありません。 他の自治体では、グループワークを取り入れた検討をしている事例もあり、多くの意見を抽出する良い方法と捉えています。 本市では、次年度から、計画に基づいて、統廃合する地域ごとの検討会を実施することを想定しています。
3	市の教育方針として「小中一貫校の設置」を掲げ、どのエリア(地域)にも、小中一貫校が設置されるというような配置は検討できないのでしょうか。 合併して今の渋川市になったものの、各地域の歴史や文化があります。ですので、いったんは各地域に小中一貫校を設置して、児童生徒数の減少状況を見て、地域を越えた統合をするというようなことができないのでしょうか。	他自治体の先行事例として、学校の適正規模・適正配置を機に、地域内にある小中学校を全て義務教育学校としている自治体もあります。 本市においても、学校の適正規模・適正配置を検討することに並行して、義務教育学校や小中一貫校の良いところや導入に当たって検討が必要になるところなどの研究を進めている段階です。そのため、現時点で市の教育方針として、「地域内の学校を全て義務教育学校や小中一貫校とする」ということを計画(案)として選択できる段階にはないと考えております。 しかしながら、学校の適正規模・適正配置を進める上では、義務教育学校や小中一貫校の導入も手法のひとつとして捉えておりますので、引き続き研究を重ねたいと考えております。
4	適正規模・適正配置はなぜ必要なのでしょう。基本方針について改めて知りたいです。	市は、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化、その他社会が変化する中でも、子ども達が将来にわたって望ましい環境で学び続けられるよう、学校規模の適正化や今後を見据えた学校の配置の在り方などの検討を進めています。 「クラス替えができない規模の学校がほとんど」、「多くの学校施設が築40年以上になっている」などの、本市の学校を取り巻く環境の変化等に対応するため、学校の適正規模・適正配置を進める方針を令和7年3月に「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」として定め、本市の考える「適正な学校規模の基準」と「適正な配置の基準」を整理しました。 適正規模・適正配置を進める発端には、「子どもの教育環境の改善」や「子どもの選択肢を確保すること」があります。それには、一定の規模(人数)が必要になります。また学力や心の成長には、一定の学級数があるという考えもあります。 「教育のこと」「まちづくりのこと」「行政運営のこと」をバランスをとりながら、子どもたちが望ましい環境で学び続けることができるよう、学校の適正規模・適正配置を進める必要があると考えています。 ※基本方針は市ホームページでご確認いただけます。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
5	市全体で人口が減っている状況がありますが、子育てで人口が増えている自治体もある中で、渋川市は何か取組をしているのでしょうか。教育の分野だけでなく、まちづくりなど他の分野のことも踏まえた適正配置が必要に感じます。	人口減少対策として、子育てに限らず、まちづくりの分野でも様々な施策を講じているものの、多くの自治体同様に、渋川市内の人口は減少している状況にあります。 今回は学校の適正規模・適正配置の検討となり、教育の分野に焦点があたった内容になりますが、現在、これと並行するかたちで、「総合計画」の見直しも進んでおります。 総合計画では、教育の分野も含めた、市全体としてどのようなまちづくりをするか検討することになります。学校の適正規模・適正配置の検討を進める上では、総合計画を含む、他の市の施策等の運動も図りながら対応したいと考えています。
6	全体の流れとして、適正規模・適正配置が必要なことは理解できますが、小規模校の良さというものもあります。市内に1校くらいは小規模校があっても良いと思うのですがいかがでしょうか。	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」により、適正な学校規模の基準を策定する際にも、子どもによって適正な規模の考えが変わるため、小規模の学校の可能性も踏まえた検討にしてほしいという意見はいただいております。 現在の検討は、基本方針の基準に基づいたものとしておりますが、頂戴した意見も踏まえ、学校の選択制の導入なども研究・検討いたします。
7	小学校が統廃合されるに当たり、通級や情緒学級の配置はどのようになるのでしょうか。	通級や情緒学級については、学校の適正配置がどのようになるかによって検討を進めることになります。担当する教員や学級数などについても、群馬県とも協議が必要になると想定しています。
8	第1回の説明会では、適正規模化(統合)した学校は、なるべく再び統廃合をしないようにしたいという説明がありました。一方で、素案の「河川区切りモデル(P17～P26)」では、一部のエリアで適正規模を維持できない可能性があるとの説明でした。この場合、適正規模を維持できなくなった学校は、再度、統合などをすることになるのでしょうか。	学校の適正規模・適正配置を進める上では、一時的な適正規模化としないことが理想と考えています。 今回お示した「河川区切りモデル」は、適正規模を維持できなくなる可能性があるモデルであり、規模の面で妥協したモデルとなります。 適正規模の維持だけを考えたモデルとした場合、旧市町村の区切りを大幅に崩した形をお示しせざるを得ないものとなります。しかし、適正規模・適正配置を進める上では、地域のつながりも重視したモデルもお示して、ご意見を伺いたいという意図がございます。 なお、お示した「河川区切りモデル」の場合、適正規模を割る状況が把握できたところで、再度の統合が必要になるものと考えています。
9	素案資料の22ページのパターン2に義務教育学校の新設の想定があります。場所の想定が「北橋中同位置」と記載されていますが、エリアの南に寄っているように思えます。もう少し北に移動することは検討できないのでしょうか。既存施設でなく、新設でも良いと思うのですが。	北橋中学校の利用に関して、これまでの説明会等で「赤城南中学校の敷地が広いので、そちらを利用できるのでは」とのご意見もいただきました。次回、修正案を作成する際には、その意見も考慮して検討させていただきます。 なお、校舎新設につきまして、素案でお示したモデル(素案資料の13ページ及び23ページ)では、子持中学校を利用することとしていますが、この場合は施設の老朽化に合わせ、いずれ改築等が必要になります。しかし、子持中学校は、黒井峯遺跡(国指定史跡)上にあり、改築(同位置に建て替えること)が困難であるため、子持中学校を利用する場合は、今後、必ず新築(別の場所に校舎を建設する)費用が必要になります。 費用の面では、「校舎の新築」に対して「既存校舎の活用」であれば、費用を抑えることができます。そのため、市全体の予算から考えて、費用を抑えることを考慮し、素案でお示した2つのモデルは、既存施設の利用を想定した内容としているものです。 修正案の作成に当たっては、他の学校の適正規模化の状況を踏まえ、新設の可能性も再度検討いたします。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
10	適正配置が進むと、子ども達は遠い学校や違う地域の学校に通うことになります。できれば新しい校舎に通わせてあげたい気持ちがあります。予算上難しいこともあるかと思いますが、長寿命化改修だけでは環境が良くなるように思えないのですがいかがでしょうか。 適正規模・適正配置を進める上で、市の予算のことにも触れた方が良いでしょう。子育ては未来を育てる事業です。	子ども達にとって学びやすい環境、充実した学校生活を送れる環境を実現したいと考えています。 長寿命化改修は、既存施設の構造体(柱など)をそのまま活かしながら傷んだ部分を直し、新築同様の性能やきれいな状態にゆみがえらせる工事を想定しており、子ども達の学びの環境の改善になるものと考えております。 加えて、「校舎の新築」に対して「既存校舎の長寿命化改修」であれば、費用を抑えることができます。学校施設の改修等の費用については、将来的な市の財政への影響が非常に大きい者と考えられるため、できるだけ既存施設を有効利用したいと考えています。
11	小学校、中学校は、より理想的な場所へ建てることはできないだろうか。現状の学校を使うと、なかなか理解を得られない面があると思います。	
12	第1回、第2回ともに子育て世帯の参加者が少ないことがとても残念です。すぐーなどで内容を添付するなど周知してほしいです。	説明会開催のお知らせは、広報しぶかわだけではなく、市の公式SNSでの発信や、すぐーでの情報発信をしています。 また、説明会でいただいた意見等につきましては、市の考え方と共に、市ホームページで公開しております。 今後の説明会開催のお知らせに当たっては、いただいた意見等の公表状況等についてもお知らせできるよう、内容を調整・検討させていただきます。
13	総合施策の中にどのように位置付けているのかも知りたいです。	市では、子育てや産業、文化など、様々な分野における市政の指針となるまちづくりの最上位計画「総合計画」に基づき、まちづくりを進めています。 現行の第2次総合計画が令和9年度をもって終了することから、令和10年度以降も引き続き市民にまちづくりの長期的な展望を示すため、今後、第3次となる新しい総合計画を策定します。 総合計画における、本市の「教育」は、「施策の大綱・5豊かな心と文化を育むまち」に整理されています。市ホームページには、総合計画策定に係る市民説明会の実施状況(令和8年7月～8月に開催)を掲載しています。 □ホームページID: 15509
14	子どもを育てるのに環境を整える必要があると思います。	□URL: https://www.city.shibukawa.lg.jp/shisei/000259/000261/p015509.html# 当該ページには、説明会資料を掲載しており、「資料本編」の7ページに、「5豊かな心と文化を育むまち」の内容を掲載しています。 なお、現行の第2次渋川市総合計画後期基本計画に関する市ホームページの情報は下記のとおりです。 □ホームページID: 10360 □URL: https://www.city.shibukawa.lg.jp/shisei/000259/000261/p010360.html
15	適正規模が必ずしも学力向上につながると言い切れるものでもないと思います。	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針(本編)」の25ページには、学校規模によるメリット・デメリットの例を掲載しています。学校の適正規模・適正配置を検討するに当たり、学校規模によるメリットとデメリットを把握し、様々な視点、立場からの検討を行う必要があると考えております。 なお、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」に関する市ホームページの情報は下記のとおりです。 □ホームページID: 15383
16	小規模校の良さもあると思います。	□URL: https://www.city.shibukawa.lg.jp/kyouiku/000110/000111/p015383.html#